

ながい たかし

永井 隆

- * 明治41年 2月 3日 松江市生まれ
- * 昭和26年 5月 1日 没 (43歳)



○ 略歴

- 昭和 7年 (24歳) 長崎医科大学を卒業後、同大物理的療法科に勤務し、放射線医学を専攻。
- 昭和 9年 (26歳) カトリックの洗礼を受ける。
- 昭和12年 (29歳) 軍医となり中国各地を転戦。
- 昭和15年 (32歳) 長崎医科大学助教授・物理的療法科部長になる。
- 昭和20年 (37歳) 6月、職業病でもあるレントゲンの大量照射による白血病のため、余命3年と診断される。
8月9日、原爆で被爆して重傷を負いながら、救護活動にあたる。
- 昭和21年 (38歳) 長崎医科大学教授に就任するが、間もなく病床に伏す。
- 昭和23年 (40歳) 3月、如己堂に移った後、8月には大学を退職し療養に専念する。
- 闘病生活の中で、「ロザリオの鎖」「この子を残して」「長崎の鐘」「いとし子よ」などを相次いで出版。
自らの生活信条（如己愛人）を基調とした体験記録などを書き続け、平和への切なる願いを世界の人々に訴え続けた。

昭和28年に長崎市立永井図書館が発足、昭和44年、長崎市立永井記念館となる。
平成11年に全面改装後、翌12年、「長崎市永井隆記念館」と改称して開館する。

○ 主な受賞歴

- 昭和24年 長崎市名誉市民
昭和25年 内閣総理大臣表彰

○ その他の代表作

亡びぬものを (昭23) 生命の河 (昭23) 花咲く丘 (昭24)
乙女峠 (昭27) 如己堂随筆 (昭32) 村医 (昭53) 平和塔 (昭54)